

東大・前氏が断熱等級新設を語る

# 「等級6必須、等級7は目標に」

キムラ・アキレス合同セミナー



前氏

東京大学大学院准教授の前真之氏が、住宅性能表示における断熱等級6・7の新設と、これからの住まいに求められる性能をテーマに講演する(株)キムラ・アキレス(株)の合同オンラインセミナー『教えて、前先生!』が去る10月13日に開催され、前氏は断熱等級6を“健康・快適と省エネが両立可能になる、今後必須の性能水準”、等級7を“無暖房が視野に入ってくる、今後目標とすべき性能水準”と位置づけた。

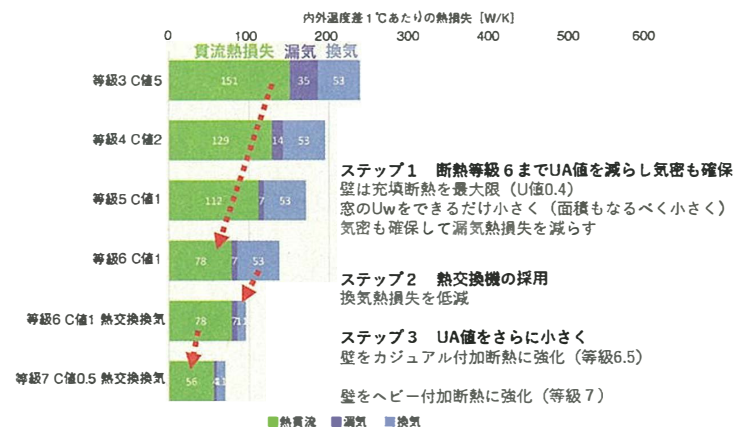
前氏は最初に、住宅の省エネ化に関するこれまでの国の動きなどを紹介したうえで、このほど新設された断熱等級6・7(HEAT20・G2およびG3相当)について説明。「電気を始めエネルギー価格が高騰している中では、この冬の暖房エネルギーをどれだけ減らせるかが大切。そこで断熱等級6・7の性能水準が必要になってくる。災害時の室温維持などレジリエンス性を確保する意味でも断熱等級6・7は大事だ。等級6はこれからの住宅のスタンダードな性能となるべきもので、健康・快適と省エネが両立できる性能水準。等級7は世界的に見ても相当高い性能水準で、暖房エネルギー消費量を限りなくゼロに近づけられる。等

級6はもうマスト(必須)で、等級7は今後の目標。これからは等級6+αの断熱性能という意味で等級6.5を目指してもらいたい」と、断熱等級6・7への積極的な取組みを促した。

また、断熱等級6・7を目指すにあたり、「まずは窓の性能を上げ、次に外壁の性能を付加断熱で強化したい。UA値を計算する際、窓は住宅性能表示・評価協会(評価協)などの仕様表にあるU値を使うか、メーカーの自己適合宣言書のU値を使うかで、結果が大きく異なってくる。評価協のU値は性能的に低い数値なので、高性能な窓を使う場合はメーカーの自己適合宣言書のU値で計算する」といい」と解説した。

講演後には参加者からの質問コーナーも設けられ、等級7を上回る断熱等級追加の可能性などの質問に回答。自分が家を建てるとしたら断熱等級はどうするかという質問に対しては「等級7」と即答した。

## 熱損失の効果的な削減ステップ(2地域)



前氏は断熱等級6を必須とし、そのうえで気密性能の向上や熱交換換気などにより住宅全体の熱損失を減らす考えを示した(前氏の講演スライドより)



アキレス・キューワンボードによる桁上断熱の施工現場